



④登別温泉ふれ  
大崎市の市民会

コンが主体ではない。機械館はフィープ・リール社。フィープ・リール社は製鉄工場を持たない鉄骨の二次メーカー。ポルドー・サン・ジェン社はルブラン社。ルブラン社は鉄骨橋梁（りょう）が主力製品。クテデ・イ・リオン銀行はエッフェル塔を造ったエッフェル社。エッフェル社も橋梁が中心のメーカー。サマリテヌ・デパートはシユワルツ・オモン・アトリエ社。温室も鉄骨とガラスで造られたものが多く、有名なポー温室はデュ・ポワ社による。既にガラス屋根を採用していることから、結露対策や通風問題も研究さ

れており、動く天井屋根も既に開発されていた。より薄く、より広く！戦後モダンズムにおける構造的挑戦  
戦後のユニークな建築物3物件を取り上げる。北海道の「登別温泉ふれあいセンター」（旧登別温泉科学館）は、渓谷にブリッジを渡すような建築になっている。川をまたぎ、中央にアーチ状の屋根があり、展示館がブリッジ状になっている。1957年の建築。

高知県土佐清水市の「海のギャラリー」は貝の展示館として知られる。建物の屋根にアクリル製のトップライトが設けられているのが特徴。1966年建築。  
宮城県大崎市の市民会館は、まるで風呂敷を四方からつっているような屋根の形状がユニーク。1966年建築。  
群馬音楽センター、福島県教育会館、都城市民会館もユニークな建物として知られる。

合でブースを出しても効果がない。座ってもらってお客さんの声を聞くことで、具体的な身のある話につながる」といい、聞くことに徹した。  
社員はフルネームが書かれたバッジを新しく作り、今回のイベントから襟に着用。人の配置や適度な空間の確保、大画面のスクリーンとソファも置くなど、接客対応やブース作りにもこだわった。  
高橋社長は「お客さんをもてなすという気持ちがあれば通用するかどうか、大きなチャレンジだった」と語るが、同社のブースには2日間で約700人が来場。305人からアンケートを回収した。

## サン・ウインドトリー住器

# イベントで「カフェ」

## 座ってもらい話を聞く

サン・ウインドトリー住器（京都府宇治市、高橋秀直社長）は12月10日から2日間、京都市伏見区の京都府総合見本市会館で開かれた「京都環境フェスティバル2011」に出展。「エコ怒力フェ」と称するスペース

イベントでカフェを開くことは高橋社長が長年温めてきたアイデア。その狙いについて高橋社長は「座ってもらえばコミュニケーションができて、話も広がる。主催者側の理解もあり、やっと具現化できた」と語る。

高橋社長（右端）も参加したトークセッション



11日にはタレントらが参加するトークイベントが開かれ、高橋社長がメインコメントーターの1人としてプレゼンテーションをした。



「エコ怒力フェ」の様子



### □ 人事異動 □

#### 日本電気硝子

(12月1日)

薄膜事業部長代理兼製造部長（プラズマ板ガラス事業本部）  
ス事業本部プラズマ板ガラス事業部長代理兼薄膜製造部長 安藤雅章  
〈機構改革〉薄膜事業部に「製造部」を新設、プラズマ板ガラス事業本

部プラズマ板ガラス事業部の薄膜製造部を廃止し、業務を薄膜事業部製造部に移管

#### AGC旭硝子

(12月26日)

旭硝子汽車玻璃（中国）有限公司派遣「ガラスカンパニー」日本・アジア事業本部長付）竹川善雄

敬称略